

アウクスブルク 10 日間の思い出 ~ Precious memories ~

竹原 和慶

はじめに

私は今回の尼崎市青年使節団としてドイツのアウクスブルクに訪問させていただきましたが、今回が初めての海外で、期待と不安を抱きながら、事前研修やパスポートの取得、ホストファミリーへの日本のお土産を買いに出かけたりしながら、出発日までを過ごしていた。

1 日目 (9/13)

23 時 30 分ごろ関西空港発ドバイ着のエミレーツ航空で離陸。ドバイまで約 10 時間のフライトで、私は今までそのような長時間のフライトは初めてだったので、疲れてしまった。機内食は想像していたよりもおいしかった。1 本だけ映画も鑑賞した。

2 日目 (9/14)

ドバイ、現地時刻 5 時ごろ到着し、乗り継ぎのため 2 時間ほど空港内を自由行動した。空港内を移動している様々な人々が様々な言語が飛び交っていて、戸惑いながらも刺激をうけた。ドバイ空港は高級店やブランド品の店が多くあり、高級感漂わせる活気のある空港であった。ドバイから約 6 時間 30 分かけて、ようやくドイツのミュンヘン空港に現地時刻 13 時ごろ到着。入国手続きに時間はかかったが、無事に全員が到着することができた。そして、いよいよホストファミリーとのご対面のとき。緊張しつつ、ホストファミリーのクリスと対面。クリスのお父さんが積極的に英語で話しかけてくれて、緊張もほぐれてコミュニケーショ

ンも活発になっていった。クリスの家に到着し、家の近くの広大な森を散策した。自然の豊かさを味わうことができた。散策後、初めてのドイツでの夕食。自己紹介をしながら、料理と会話を楽しむことができた。

3 日目 (9/15)

午前 9 時、市庁舎前に集合。最初のプログラムはルドルフ・ディーゼル記念公園です。尼崎市と長浜市がアウクスブルクと結びつきの強い場所である。枯山水の風景が再現され、森林が周りに大きく広がり、新鮮な空気が漂っていた。次に訪れたのは、世界最古の社会福祉住宅「フッゲライ」です。そこでは、家賃が 88 セントで当時と変わらず、住む条件としてアウクスブルク市民であること、カトリック教徒であることなどが定められており、門限を過ぎて帰宅すると罰金が科せられる。(翌日に門が開くまで待てば払わなくてもよい) 私が最も驚いたのは家の外観に呼鈴が設置されており、それぞれでデザインが異なっていたことです。高級住宅街とってしまうほど、立派な建物が連なっていました。そして、徒歩で市表敬訪問のため市庁舎へと向かった。市庁舎の「黄金の間」では、吊天井になっており、そこには、アウクスブルクの歴史的景観天井画が施されていた。また、姉妹都市を結んでいる都市からの記念品が展示されていた。その後、教育長と両団長の挨拶があり、芳名録に署名した。

昼食後、アウクスブルク市内では人気のブッペンキステというマリオネットを使った人形劇をする場所へ向かった。その舞台裏に入り、最大 68 本もの紐を数名で操らなければならないほど、指の器用さが求められる作業であることが実感できた。その後、大型ショッピングモールに行った後、市庁舎前で解散。家に帰ってからはホストファミリーと一緒に夕食の準備を手伝った。

4 日目 (9/16)

午前 9 時、市庁舎前集合。まず、徒歩でアウクスブルク大聖堂へと向かった。中に入ると、聖母マリアの母が描かれているという絵画を見て、スタンドグラスに描かれている内容について説明を受けた。その近くの噴水のある庭園では、不要となった本を寄付するための本棚があったりし、とにかく空気が澄んでいた。そこから市立新図書館を視察した。2009 年に設立された比較的新しい建物である。私が最も驚いたのは、返却された本や DVD をなどがカウンターとは別の部屋で自動的に読み取り、分類されていたことである。その後、歩いて市立マーケットを視察した。それぞれの店では野菜や果物等の商品が包装されずに、そのままの状態で売られていたので、新鮮に見えた。また、ウインナーやベーコン等を試食させてもらい、とても美味しかった。昼食後、市庁舎前から 1 時間ほどバスに乗り、ダッハウ強制収容所へと向かった。この収容所は第二次世界大戦以前からあり、当時、政治犯が収容されるなど劣悪な環境下で、必死で生き残る方法を考えていたのだろうと資料や博物館のパネルを見

ながら思った。収容所は日本人が抱いているイメージよりも、さらに、悲惨な状況下であったことが想像出来た。夜は、他のホストファミリーと一緒にボーリングをした。コミュニケーションをとる絶好の機会となり、他のホストファミリーとの交流も深まっていった。とても、楽しい時間だった。

5 日目 (9/17)

通常よりも早い午前 8 時、市庁舎前集合。まず、キリスト教の受難劇が行われていることでも有名な「オーバーアマガウ」という村へと向かった。その村の家では、住人がどのような職業をしているのかが壁面に描かれており興味深かった。そして、世界遺産であるヴィース教会へと向かった。実際に礼拝が行われているところを見ることができ、貴重な体験ができた。昼食は「ホームンシュヴァンガウ」で摂り、湖と背景がとてもマッチしており、ロマンチック街道の素晴らしさを肌で感じることもできた。そして、ノイシュヴァンシュタイン城へ向かい、途中までは馬車で行った。中に入ると音声ガイドに従って各部屋の説明がされていて、当時利用されていた寝室や調理場、螺旋階段なども見学することができた。この日は、とても移動の時間が長かったので、疲れてしまった。そして帰宅後、夜はテレビでサッカーを見て、さらに、途中でドイツ語のニュース番組をクリスマスに英語で伝えてもらいながら見ていたので、疲れが倍増した気分になった。とても忙しい 1 日であった。



ノイシュヴァンシュタイン城

6日目(9/18)

午前9時、市庁舎前集合。最初のプログラムは日本庭園。ここでは、現地の草や木を生かしながら、日本の庭園を再現しており、その光景が自宅近くにある近松公園の風景にどこか似ていた。朝方だったこともあり、木洩れ日が美しかった。ここでも、アウクスブルク市と尼崎市の姉妹都市関係の一端が見ることができた。次に向かったのは、アウクスブルク市内で2番目の広さを誇るルドルフ・ディーゼルギムナジウム(中・高校)。まず始めに驚いたのは高校でプログラミングの授業があることだ。最も楽しかったのは実際に生徒たちと一緒に物理のクラスの授業を受けたことだ。生徒たちは先生の指示を聞きながら、ユーロコインが磁石にくっつくか、くっつかないかの実験をしていた。生徒たちの反応が素直で、声を上げて笑い、とても楽しそうであった。最後にドイツの教育制度を学び、ドイツの子供たちは若干10歳で将来の進むべき道を選択しなければならないということです。次に向かったのは、歴史的給水施設で、ここではアウクスブルク市へ氷河期の水を自然浄化して供給している。給水されている水を見ると、無色透明で

透き通っていた。その後、コングレスセンター(エネルギー施設)を視察し、そこには多目的ホールがあり、私たちが行った時にはいくつかの会社のブースが設けられていた。地下に向かうと熱エネルギーを隣接している建物へ供給するシステムが見ることが出来た。屋上には太陽光パネルが設置されており、環境面に配慮されていた。夜はホストファミリーのマティアス宅で「kniffel」というボードゲームで楽しんだ。また、大勢いたので盛り上がった。

7日目(9/19)

午前8時30分、市庁舎前に集合。まず、保育施設に向かった。ちょうど、朝の集まりが終わって、生徒たちが様々な部屋を歩き回っていた。ロッカーらしき場所には子供達の写真と帽子、リュックサック等があり、見ていて癒された。また、子供達の生徒の誕生日を月別に壁に飾ってあったりし、弁当を食べる場所、ベッドで寝る場所などもあり、施設環境がとても素晴らしかった。その後、アウクスブルク大学の図書館を視察し、大学内の学食に行くと、とても広く学生も多かったです。法学部の授業を見学すると、テスト中であり、熱心に取り組んでいる姿を見ることが出来た。次に向かったのは、FCAアウクスブルクスタジアムである。芝生が青々と整備されておりサッカーだけでなく環境にも優しく、CO2の排出が少ないように設計されていた。次はモーツァルトハウスに向かった。音声ガイドと展示物(楽譜のコピー、ヴァイオリン、手紙)があり、音楽を聞きながら楽しむことが出来た。夜は、送別会が開かれた。

私たちのグループは全員で浴衣を着て「日本に関する ×クイズ」を作り、ドイツ語で質問や答えを考えた。しかし、リハーサルでは時間も少ない中、原さん達にドイツ語の修正をしてもらい、ハラハラしながら本番を迎えた。本番では皆さんの反応も良くほっとした。長浜市の出し物もあり、会場の雰囲気も高まっていった。送別会が無事に終了すると、長浜市の団員の方や他のホストファミリーたちとの別れの時間がやってきた。とても寂しい気分になった。その後、帰宅した。

8 日目 (9/20)

今日は1日中ホストファミリーと過ごすことができる唯一の日。まず、友達にお土産を買うために市庁舎の周りの雑貨店を見渡しながらか、市内を歩き回った。昼食を食べ、家に帰ってからホストファミリーとクリスと共に車で 20 分くらいの場所で小さな音楽隊 (フェスティバル) の演奏会を見に行った。のどかな休日の午後にはピッタリの落ち着いた音楽であった。夜は、他のホストファミリーと一緒にノイザスという場所でオクトーバーフェストが開催されていたので参加した。舞台ではミュージシャンがドイツ語で歌っており、周りの人々もテーブルの上でビールのジョッキを乾杯し合っていて、見ていてとても面白かった。それぞれの曲にあわせて独特のジェスチャーをして見様見真似で楽しむことが出来た。



9 日目 (9/21) \ 10 日目 (9/22)

ホストファミリーとの最終日の朝を迎えた。クリスと一緒にパンを買いに行き朝食後、ウォークマンで日本の音楽とドイツの音楽を交換し合った。最後にホストファミリーに1週間、滞在させていただいた感謝の言葉を述べ、一緒に写真を撮った。それから、市庁舎前からバスでミュンヘン空港へ向かい、そこからドバイまで飛行。ドバイ空港では再び2時間ほどの自由時間があり団員と一緒に散策し、団長や副団長らと話をして過ごした。それから、約9時間後、関西空港に到着し、日本に無事帰国したことを実感した。



Monika, Alexander, Stephanie, Lucas, Siegfried, Christopher

終わりに

今回、尼崎市青年使節団としてアウクスブルク市を訪問し、毎日が新しい体験ばかりで、戸惑いながらも、他の団員と一緒に楽しみながらプログラムや観光が

でき、かけがえのない思い出となりました。私が最も感じたことは、日本の文化・伝統、尼崎市の魅力をホストファミリーに英語で伝えることの難しさです。しかし、出来る限りの単語を駆使しながら、伝えようと積極的にコミュニケーションを取れたことは、これからの自分にとって自信にもつながると同時にさらに英語やドイツ語のコミュニケーション能力を高めていこうと思えるようになりました。初めて、海外の人々と交流しアウクスブルクの市民を見ていると皆、朗らかで親しみやすい印象を受けました。そして、これからも、尼崎市とアウクスブルク市の姉妹都市交流が続き、次の尼崎市青年使節団へとつなげられるように、これからも国際交流の一助になるように協力していきたいと思います。最後に今回のプログラムを計画して下さった尼崎市、アウクスブルク市の関係者をはじめ、使節団を受け入れてくれたホストファミリーの方々に対して感謝申し上げます。

貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。